



山小通信



様々な学びの中で

校長 中村 秀孝

早いもので、二学期ももう終わろうとしています。緊急事態宣言の延長で、九月に予定していた学校行事や学年活動の多くが十月、十一月に延期となりましたが、感染症対策を徹底しながらも一つの行事が実施できたことは、大変嬉しく思います。もちろん、実施にあたっては、児童の健康管理だけでなく、同居家族の健康管理にも細心の注意を払っていただいた保護者並びにご家族の皆様のご協力があったること、感謝しております。

さて、二学期の行事というと、全校で取り組んだ運動会、六年生の修学旅行、五年生の自然学校、四年生のしそ森林の探検隊、三年生の環境体験学習、一、二年生の地域探検「秋みつけ」等々が挙げられます。いずれの行事にもそれぞれねらいがあり、そのねらいの達成に向けて事前指導や事後指導を行いながら計画・実施していきます。運動会のように練習期間の長いものは、その過程で子どもが変容していく様子がよくわかります。また、活動場所を学校の外に移す各種の体験活動は、学年によって身近な校区で行うものから修学旅行のような県外での活動と範囲に差があります。自分の住む地域のよさに改めて気づいたり、訪れた土地の文化や自然にふれたりする中で多くの発見や学びがあり、児童



にとっても有意義で楽しいものでもあります。

本校の校区にあるのみじ山には、今年も多くの方が観光にいられていました。校外学習でものみじ山を訪れた子どもたちには、紅葉した木々の美しさとともに、たくさんの方が関心を持ってくれる自慢の観光地として記憶にいつまでも残ることでしょう。同様に市内の施設や自然の中で行う各種体験学習では、卒業ならではの取組や自然の素晴らしさに触れ、学ぶことで、改めて自分たちの住むふるさとの素晴らしさを感じることができま

す。活動場所を県外に移す修学旅行では、本物に触れる体験を通して我が国の文化や歴史を実感し、身近な地域の歴史にも関心を持つことにつながります。こうした種々の活動が、自分のふるさとであるこの町を大切に思う気持ちに繋がっていくものと考えています。自分が生まれ、育ち、住んでいるところをかけたえのないふるさととして大切に思う気持ち「ふるさと意識」の醸成は、ふるさとを活かす人づくりのベースとなるはずで、普段見慣れた地域の姿を、新たな思いをもって見ていく機会として、これからも工夫を重ねながら継続していきたいと考えます。

れることのできない言葉としてその後の活

ウィズコロナ 冬ののりきる

養護教諭 山本 路子

突然、全国の学校が休校になったあの日から、当たり前の日常がどんなに幸せだったかを実感することとなりました。新型コロナウィルス感染症の流行に伴い、新しい生活様式が取り入れられ、「ウィズコロナ」

コロナと共存する生活を続けています。お家での生活時間が増えた分、大切になるのが生活習慣です。免疫力をアップさせウィルスに負けない体をつくることが重要です。



一 質のよい睡眠をとる
早寝早起きでしっかりと睡眠をとると、成長ホルモンやメラトニンが分泌され、昼間にできた有害物質（活性酸素）を取り除いてくれます。活性酸素が体の中で増えると病気の原因になるので、しっかりと寝ておくことが大切です。



二 運動を毎日続ける
運動すると体温が上がり、血流がよくな

ります。免疫細胞が活発に働き免疫力がアップします。
三 バランスよく食べる
免疫細胞の70%は腸に集まっています。腸の中が健康であれば免疫力も上がりやすくなります。腸内環境を良好にしておくために、食物繊維や発酵食品をしっかり摂ることが大切になります。



「ウィズコロナ 冬ののりきる」ためには、手洗い、消毒、マスク着用、三密の回避等、日頃の感染症対策に加えて、加湿や換気も重要になってきます。また、見えな不安を解消するために、正確な情報を知って冷静に備えることが大事です。

「雨は一人だけに降り注ぐわけではない。」は、ある詩人の言葉です。「今つらいのは自分だけじゃない。誰の上にも陽のさす時が来る。」という意味です。私たちが今できることに取り組み、一人ひとりの予防が、自分やまわりの人たちみんなを助ける一年がまたおとすれますように……。

12月の行事予定

- 17日(金) ALT来校 子ども伝統文化わくわく体験教室 狂言3回目(6年生)
- 20日(月) ALT来校
- 22日(水) 給食最終日
- 24日(金) 第2学期終業式
- 25日(土) 冬季休業開始



1月の行事予定

- 1日(土) 元日
- 4日(火) 仕事始め
- 10日(月) 成人の日 学校創立記念日
- 11日(火) 成3学期始業式
- 13日(木) 給食開始 身体測定(低)
- 14日(金) 家庭読書デー 身体測定(高)
- 委員会
- 17日(月) 避難訓練 1.17追悼行事

児童の作文

五年生自然学校特集

カヌー

田路 歩乃花
カヌー体験をしました。すごく不安でした。乗るときもこわかったです。乗って少しいから、何回か他のカヌーとぶつかってドキドキしたけど、友だちと声をかけ合いました。降りるとき、何人かの友だちを手伝ってもらってうれしかったです。楽しかったし、やってよかったと思います。



丸山 夕愛

今日、カヌーをしました。わたしは、落ちないかと不安で、とってもこわかったです。それに、こぐ時、水が重たくてとてもこぎにくかったです。

ちょっとコツをつかんたら速く進みました。落ちている子もいたけど、私は落ちませんでした。友だちとぶつかって、安全にカヌーができました。とっても楽しかったです。

これから、家族や友だちと、またカヌーをしに行きたいと思いました。これらの自然学校もがんばりたいと思います。

海辺の活動

田淵 快斗
赤穂へ行って、海洋科学館と海辺を見に行きました。初めて見る知らない物

たくさんあったけど、特に体の中の塩の量に分かる機械のしくみが気になりました。最後に海へ行って貝拾いをして、いろんな子と貝を見せ合い、さらに仲が深まったのでうれしかったです。

長野 愛音
浜辺では貝をたくさん取りました。みんなきれいな貝をとっていました。宍粟市には海がないので、海に行けてうれしかったです。大きな貝から小さな貝までいろいろあって、その中からきれいな貝をとりました。まだ家族には見せていないけど、みんなと海に行けた思い出にしたいと思います。



野外炊飯体験

川越 実緒
野外炊飯をしました。わたしは、初めてだったので「本当に出来るかな。」と思っていただけ、実際にやってみておいしいご飯ができたのでうれしかったです。人生で初めての体験を自然学校でみんなとできて良かったです。あと火おこしの時、みんな協力できてよかったです。

有元 ころろ
わたしは最初、「カンカンなんかでご飯がたけるの?」と思っていました。だけど、いざ作ってみると、おこげの部分もパリパリでおいしかったですし、カンカンでしか作れないおいしさがあった気がします。また家でもやってみようと思います。



キャンドルサービス

岩川 楓河
みんなとっても楽しくて、いつもよりみんなと仲良くなった気がします。キャンドルサービスでは、何事も全力で取り組むという事に気づかせてくれました。何事も全力でやったら楽しくなることがわかったので、これからも全力でがんばりたいです。

田淵 遥真
今日、最後の自然学校のプログラムでした。行く時は暗くてホラー感があってワクワクしました。ほくは暗いところが好きなので暗いところは得意です。部屋に入ると、リーダーさんがおもしろい遊びをしてくれて、ほくも「本気」でやりました。

リーダーさんが最後に話してくれたのは、「何事も全力でやろう。」ということでした。これからはそれを守っていいこうと思えました。



東山登山

西山 結菜
二日目の朝からお昼すぎにかけて、東山登山をしました。東山の歴史などについて教えてもらいました。たぶん、この山だけでなく、他の山にも何百年もの歴史があるんだろうなと思いました。そしてもう一つ教えてもらいました。「友だち

です。やっぱり仲間がいると不安もなくなりました。これからも「きずな」を深めたいです。

大前 来仁
東山登山で、登る時に足がとても痛くなりました。でも、頂上につくと、景色が最高でした。みんなでいっしょに頂上で食べたおにぎりの味は、忘れられません。



ついで体験

古川 神綺
ほくは、つりが上手ではないけれど、一回、つり糸を入れただけで魚をつることが出来ました。そして、友だちを手伝いました。だけど、なかなかつかれなくて、他の友だちも手伝ってくれました。すると、何回かするとつれました。つれた時は、ほくもうれしかったです。助け合いは大事だと思います。



宗接 光咲
つり体験はとても楽しくできました。魚が針にくいつく時はとてもおもしろくて、中には大物もいました。魚はすばしっこくて、つるのがとても大変だったけど、魚も生きていますから必死で逃がっているんだなと思いました。魚の命をもらうので、やっぱり「いただきます。」は大事だと思います。